

1963年9月創刊号



会報

NO.1

墨東ゴム工業会

事務局 東京都墨田区隅田町1-1232 長瀬ゴム内 TEL (611)3171





巻頭言

創刊のことば

長瀬泰吉

墨東ゴム工業会が、昨三十七年四月二十七日発足致して以来、既に一年有半を経て、会としての体制事業計画等も決り、ようやく、その体制並びに基礎を固めつつあることは、会員の皆様と共に、私の深く喜んで居るところであります。

さて、この度、会員の皆様の御要望によつて、役員会の議を経て、会報の発刊を見るに到りました事は、之、偏に会員有志の方々の御努力の賜でありまして、本会の発展にとりまして、誠に意義深い事と存ずる次第であります。

又、その内容につきましては、編集方針にもあります様に、『会員の親睦を目的として、技術、経営経済の各方面に亘つて、企業の運営、発展、に資する内容と共に、会の事業報告の内容をも含むものとす。』であります。本会の目的でありますところの、『会員相互の親睦、技術の向上、企業の健全なる発展、業界の情報交換等』の本会の主旨にそつた、最も有意義な企てであると思ふのであります。

特に、この度の、会報発行の企画は、お若い方々からの、盛り上りによつて、創刊の運びに到りました事に、大きな意義があると存じます。

元来、この種の企ては、多くの困難や煩瑣を、伴うものでありますが、よくそれを克服して目的を達成された、勇気に対して編集に携つた方々に、敬意を払うものであります。

この上は、編集委員の方々は勿論、会員全員で、この会報を育て、積極的に盛り上げて、より多彩なより豊富な内容にして、みんなでこの会報を立派に育て永続させて下さる様、希望いたします。

最後に、この度の、会報の創刊に寄稿された方々に、感謝の意を表して、私の創刊の言葉と致します
(墨東ゴム工業会・会長)

目

次

創刊第1号

(1963年9月15日)

＜巻頭言＞創刊のことば	長瀬泰吉	1
三人よれば文珠の知恵	菅谷辰天	6
会報の発刊を祝す	新発田 博	7
祝 詞		
ともに隆盛の道を	尾山和勇	2
機関誌を共通のしおりに	山田四郎	4
＜経 営＞労使に関する諸問題	岩上 藤吉	10
墨東ゴム工業会設立までの歩み		15
＜技 術＞最近のゴム薬品	青江 一郎	16
自動車界は増産意欲旺盛		9
よみもの 墨東ゴム綺談1)	金子秀男	22
＜報告事項＞7月度・8月度理事会		25
オ一回編集会議ひらく 委員長に酒井氏		28
編集委員の顔ぶれ		30
アンケートの結果		31
海外ニュース		38
工業会耐用年数で要望		34
日本製靴用品工業界が発足		35
天然ゴム10年ぶりの安値		35
屑ゴムの輸出漸増		34
墨東ゴム工業会会員名簿		36
お知らせ・編集雑感		38

ともに隆盛の道を

会報発刊に寄せて

尾山和勇

(日本ゴム工業会・会長)

昨年四月、墨田地区ゴム工業者の有志が相集つて、長瀬ゴム工業株式会
社社長長瀬泰吉氏を会長とし、墨東ゴム工業会を結成されてより、早く
も一年有余の時日が流れた。

墨東の地は、歴史的にみて東京におけるゴム製品製造業の密集的な発
展の中心地である。

かゝる由緒ある地に、すでに才二世経営者も数多く活躍する現況にお
いて、新しい時代の要請から清新な気運が盛り上がり、地区ゴム工業
会の結成をみるにいたつたことは、まことに喜ばしいことと考えていた
今回貴会の「会報」創刊号発行にあたり、日本ゴム工業会会長として
所感の寄稿について要請を受けたのであるが、長瀬氏とは長年にわたる
業友であるとともに、当会にとつても発足以来の理事として、何かと御



尾山和勇氏

もどもその発展に貢献することができらば、幸これに過ぎる
ものはないと思う。

設立以来会長の職にある長瀬氏が、貴地区における業界の発展と相互

協力を願っているのでお人柄をよく承知しており、かつまた当会会員の
多数も貴会に重複して加入しているので、おもとめに応じ喜んで筆を執
つた次第である

日本ゴム工業会は御承知のごとく、日本のゴム工業の健全な発展を目
的とした事業者団体であつて全国的な組織からなっている。貴会はやは
り広い範囲の目的をもつて設立せられ、当面技術の研究とその交流に重
点をおいた地域的団体であるとうかがっている。したがつて、その性格
には自から異なるものがあるとはいへ、同じゴム工業に携わるものとし
て、その期するところは一つであると考えらる。

わが国ゴム工業の現況は、毎々当会刊行の「月報」その他出版物を通
じて御紹介しているとおりであつて、昨昭和三十七年には、消費ゴム量
においてついに英国を抜き、自由世界において才二位の動かぬ地位を確

理解のために力を尽され、着々業績の挙がりつゝあることは、関係者のよく知るところであつて、かゝる名会長を得た貴会が今後ますます隆盛をいたし、若き世代の新鋭は経営理念と老練なる経験のよき協調の下に進展されることを衷心よりお祈りするとともに、会員各社の支持により特色ある「会報」の誕生することを慶賀し、その成功を期待して創刊の祝辞とするものである。

機 関 誌 を 共 通 の し お り に

墨田区長 山 田 四 郎

昨年、墨東地区ゴム工業者の皆さんが相寄り、同業者間の円満な人間関係を保ち、健全な企業経営を相互研修するため、墨東ゴム工業会が発足されたと伺つておりましたが、このたび、これが機関誌を発行せられ活動が一そう促進されることは、まことにご同慶に堪えず心からお祝い申し上げます。

今更申し述べるまでもなく、近年わが国経済はいちぢるしい高慶成長に伴い生産活動が拡大し、産業構造も複雑高度化してまいりました。一方、貿易も自由化し、さらに資本移動が自由になるに及んで経営活動もいよいよ国際的になり、企業の国際競走力を強化するということが日本産業界の至上命題のようでございます。

国内においては、特定産業振興法あるいは中小企業基本法など一連の対策も構想し、国外においても、特に米国のドル防衛強化策としてバイ・アメリカン政策、金利平衡税創設などあわただしい最近の動きもあります。いづれにしましても、日本経済全体としての国際競走力を強化しよりよい生活ができるよう経済を発展させていくには、一つには中小企業の近代化だといわれております。

このような内外ともに試練の時期に貴会におかれては常日頃から健全な企業経営を相互協調して研究され、技術革新の命題に、又円満なる労使関係の確立あるいわ財務金融の問題等々、その解決に努力されていることは誠に敬服する次第でございます。

山 田 四 郎 氏 世界のゴム消費量も逐年増加しております折、会員皆様には今後とも貴重なご経験とご勉強を充分に発揮され、折角の機関誌を共通の研修のしおりとして長く発展され、これを資としますます貴会のご活躍あらんことを心より祈念しまして機関誌創刊のお祝いいたします。



三人よれば文珠の知恵

会報を通じて協調と発展へ



菅谷辰夫氏

若い経営者の方々のご努力によつてこの度墨東ゴム工業会の会報が発刊されますことは誠に喜ばしいことです。これ程若い方々がこの会に関心をもちてご協力下さることに對して、我々は益々この会をその目的であるところの墨東地区ゴム工業経営者の親睦と、経営合理化に對する研究及び製造技術の開発従業員福祉対策等の相互研究へ押し進めなくてはならないと考える次第であります。

副会長として私は、荷が重すぎると云う感じと共にその責任の大なることを痛感するものでございますが、ゴム工業も時代と共に発展致し、私が四十八年前始めてゴム工場の従業員として或る

菅谷辰夫

製造所に入社以来今日を眺めますと、誠に今昔の感にたえません貿易自由化の今日、世界のゴム工業に伍して我が国もこの国の製品よりも優秀なものを作り出さなければならぬ現在、自動車工業や電気工業等の発展によつて増加している部分品としてのゴム製品の性能及び耐久力が、自動車及び電気器具の性能を左右するところ大なるを考へる時、我々部品の製作者といえどもその製品の優秀性に一層の努力を要することが必要であると思ひます。単独製品である運動具、玩具、ホース、履物、雑貨日用品類においても世界のゴム製品に伍して輸出先において優劣を競う現今、私達製造業者はお互いに情報の交換に、技術の研究に、會員の結果が今日程必要な時はありません。

かような重大な時に先づ重要な品質の向上のために、協同研究

設備としての研究器具の整備や研究所の共有等も、あながち夢でもありますまい。次に製造機械に關してですが、国内全産業にオートメーションが叫ばれている今日、我等中小ゴム工業者の使用している機械が果して新時代に合つたものといえるでしょうか、なる程機械の大きさは大きくなつていますが、オートメーションという語感とは程遠いように考えられます。欧米では最近非常に進歩した機械も出来ており、我國の大メーカもこれを輸入して設備しているようですが、中小工業者には手も出ない価格で傍觀する以外ございません。そこで私達中小工業者はその工場に合つた方法を各自考え出さなければならぬのですが、三人よれば文珠の智恵とか申す諺も有るので會員同志の智恵の持ちよりで御互い

の企業がより良い道を見つけるすべもあると考えられます。従業員の福祉についても働らく人の身になつてゴム工業という同じ労働形態を集約し、研究したならば良い収穫が得られることと思ひます。

日本のゴム工業発祥の地ともいえるこの墨東地区に現存するゴム工場の多数の方々は古い歴史と経験とを持ち、今なお製品の改良に研究を続けており、その製品は国内はもとより世界各国に出荷して大なる成績を上げておりますが、時代は「ゴム屋さん」時代から合成化学の時代へと変わりつゝある今日、我々會員の智恵を豊富にし、相互の協力を昂めるために墨東ゴム工業会の会報が発刊されることに對し、若い編集委員の方々に敬意を表すると共に永く會員相互の幸福のため本誌の教ページを役立たせて戴きたいと念願致しております。(墨東ゴム工業会副会長・ヒノデワシゴ社長)

業界指導の役割を

新発田 博

本日こゝに墨東ゴム工業会の機関誌の発刊にあたりゴムに育ちゴムに生きる私共にとつて誠に喜ばしき限りにて心からお祝い申上げる一人で御座居ます。

申す迄もなくゴム工業は私共の住む墨田区の基礎産業であるばかりでなく、今日のあらゆる産業の分野に進出を致し日本ゴム工

工業はこゝ数年間に一大飛躍を遂げ、フランス、ドイツ、イギリスを抜き共産圏をしのぎアメリカに次いでオ二位進出という発展振りを示し明年は国際ゴム研究大会と国際ゴム生産者の総会が初めて我が国に於て開催されるなど国際的地位を高めている折柄同業の志相寄り先きに墨東ゴム工業会の発足の運びに至りいまだ日

海外 ニュース

米の新ゴム消費新記録

全米ゴム製造業者協会が、このほど発表したところによると、米国の今年上半期の新ゴム消費量は約90万英トンで、これまでの最高を記録した。(前年同期比31万英トン増) このうち合成ゴムが73.92%を占め、これも新記録となつた。(前年同期は72.77%) 新ゴムの消費量内訳は次の通り。

合成ゴム 665,103トン
天然ゴム 234,696トン

英国のPBラバー

英国での高シス・ポリブタジエン合成ゴム主産の足がかりを作るため、ロンドンのシエル石油会社はカナダ、オンタリオのポリマー社と提携するものと思われる。

シエルは、フランスにある工場が1964年半ばまで操業不可能なので、オランダ、ベルニスで作られた試作品を従来市場に出していたものである。

ポリマー社では、シエルがPBラバーの生産を始めるまで、その供給を行なうものとみられている。

浅きにも拘らず事業目的の一端として研修研磨の為に機関誌の発行を見るに至つた事は誠に當を得た次で他産業団体等に与える影響又大なるものがある訳で御座居ます。



新 発 田 博 氏

今日の世界産業界はあげて日進月歩の時代で我が国におきましては先の貿易の自由化にともない激烈なる国際競争の激化に対処する意味合からも高度の機械化技術の改善が叫ばれて居ります。

も又重大と云わねばなりません。私共はこの機関誌を通じ互に経営の近代化を計り技術の改良に務め産業界におけるゴム工業の役割の拡大に更に努力を重ね我が国経済発展の為に尽すより良き指導誌として行く末永く発展されん事を願ひまして機関誌創刊のお祝いいたします。

(大川護謨工業株式会社・取締役社長)



産 業

トビツク

自動車は

増産意欲旺盛

昨年一時停滯を示したとはいえ自動車産業各社の生産規模は増大の一途をたどっている。今年三月トヨタ自動車(トヨタ)の生産は、前年同月比二万五千台を超過した(二万五千二百四十四台)のをはじめ、同月には日産自動車(日産)が二万二千五百二十八台、いすゞ自動車(いすゞ)が七千九百九十二台、日野自動車(日野)が三千二百八十九台、プリンス自動車(プリンス)が四千七百二十一台、東洋工業(東洋)が一万四千七百三十七台、富士重工業(富士重)が四千六百六十六台(いずれも四輪車のみ)の生産をあげるに至っている。わが国の四輪車の生産は三十四年度二十九万六千七百七十八台前年度比百五十一、三十五年度五十六万八千五百五十五台(同百八十九、三十六年度八十七万六千八百五十五台(同百五十六)と文字どおり飛躍的な上昇を記録し続けたが、三十七年度は百三万五千五百七十九台と初めて百万台を突破したものの、前年度比は百十八に止まり増勢はやや鈍化したかにみえる。しかし生産はバスが横這い(前年度比百二)、トラックが小型トラックの伸長(同百二十六)はあつたものの、対前年度比百十七だつたのに比較して乗用車は二二三増と順調な増加を示している。これは三十六年度の伸び率二四%に匹敵する。金融引締めと道路交通事業・保管場所など自動車産業をとりまく環境の悪化の中で示された生産の伸びの中で

乗用車が果たした役割は注目していいだろう。主要各社の今年三月の小型乗用車の生産を昨年五月のそれに比べてみると、日産自動車(日産)一万五千八百八十二台(三十七年五月は七千八百六十二台)、トヨタ自動車(トヨタ)九千八百二十五台(同六千四百八十四台)、プリンス自動車(プリンス)二千三百六十九台(同五百三十四台)、いすゞ自動車(いすゞ)二千二百二十九台(同一千六百七十一台)、日野自動車(日野)一千三百二十台(同九百二十九台)、新三菱重工業(三菱)三百八十台(同二百五十五台)、東洋工業(東洋)八百三十三台(キヤロルは三十七年十一月発売で三十七年五月に生産に入っていない)とかなりの差を確認し得る。

現在わが国以外の殆ど先の先進国では、自動車生産の七八〇%以上が乗用車であり、さらにその使用先も五〇%以上が個人用といわれ、わが国は個人用に関してはまだ初期の普及段階にあるとされている。このことは国内経済発展に伴う輸送量の増大に見合うトラック需要はいうに及ばず、乗用車需要の増大をも期待させるものであり、なかんずく、プライベートカーがその推進役を果たすものと考えられる根拠を提供する。所得倍増計画は公共投資の立遅れや消費者物価問題などの難関に直面しておりモータリゼーションの進展も樂觀を許さないが経済成長の円滑な進捗という前提に立てば自動車産業の前途は洋々たるものといえるだろう。

産業構造調査会重工業部会乗用車小委員会では需要予測分科会で乗用車の需要推定について種々の検討を行なっており、昨年十二月には中間報告としてまとめられているが、ここでも将来の大きな伸びを基調としているようである。

労使に関する諸問題

岩上藤吉



岩上藤吉氏

この度、墨東ゴム工業会々報を創刊されるに当りまして、関係会員の皆さんの最も関心事である労使に関する諸問題の内、最近の労働界の趨勢、其の他私の体験、私見を御披露して、御参考に資し度いと存じます。

主題の労使関係の問題に付しましては、最近、中小企業に対する総評を始めとする革新陣営の中小企業内浸透作戦が、展開され組織拡大を図っており、逐次、各企業内に、新しい労働組合の結成が各所に見られる様になり、だんだん増大しつつあります。

会員の皆さん方の中で、未組織の向も、何時かは組合の結成に向ふものと見て、常に、労使問題の正常運営の御研究が大切と存じます。

◎最近の総評を回る労組の動き

- 1. 時間短縮の問題
- 2. 合同労組結成促進

結論と致しましては、二百人内至三百人の中小企業においてはなお半数強は、実働八時間である。

この時間短縮の問題は、ILOの批准と共に、短縮の傾向が更に強まってくるものと考えられます。

要は、短縮はするが、能率を下げない様、或は維持される様、指導することが出来れば、双方の為、結構なことである。

時間短縮と能率の問題について

時間短縮により、能率はどのようになるか。

経営の立場でこれを見た時と、労働の立場で見た時とで自ら違ふ筈である。

経営者の考えは時間短縮すれば、必ず能率は下る。むしろ、出来る丈、時間を長く働かして利根を上げたいと思うし、労働者の考え方は出来るだけ時間を縮めて良い賃金を得たいと考えよう。

これは相異なる立場であつて、根本的な考え方の相違のあることは、已むを得ない事であるが……要は其の調整の問題です。

労使関係が正常にいつている場合は、その調整は可能であると私は信じています。

それは何故か？ 労使お互に誠実、信頼感のある処、必ずや根本に相通するものを、求めることが出来るからです。即ち、労資協力に依る工天、努力が傾注された場合は、或る程度の能率問題は解決されるものと信じます。

3. 退職金の問題、待遇の改善

1. 時間短縮の問題

大企業においては、実働七時間制（拘束八時間）を更に短縮して、実働六時間制、又は、土曜半休制が論議されよう。

中小企業においては、実働八時間より、実働七時間制に、向ふんとし、これに対して、経営陣が如何に対処して行くか、注目したい。

参考の為、時間短縮に関する統計資料を次に掲げる。

日経連統計資料（昭、三七、六月現在）によると

規模	調査対照の総数	実働八時間 休憩一時間 即ち拘束 九時間制	実働七時間 休憩一時間 即ち拘束 八時間制
大中小込の場合	一五八社	四三社	八三社
従業員数一〇〇人 と二九九人の場合	六七社	三六社 53.7%	七社 10.4%

2. 合同労組の問題

総評の本年度の指導方針として、未組織労働者を結集して、地域別、産業別の合同労組を結成せしめる動きが、展開されつつあります。

合同労組の数は既に、一〇〇〇を越し、十三万内至十五万人と云われている。

特徴として、1. 三百人以下の組合を母体とし、2. 狭い地域、地区を組織の範囲としている。3. 個人加入が可能である。4. 企業の枠の外で組織できる。

このような特徴があるので、自分の工場には組合がない。或は組合は絶対作らせない等と、よくいわれるのを聞くことがあるが、若し其の工場の従業員の一人でも合同労組に加入したならば、最早や組合が、其の工場に出来たと同じであります。

合同労組には次のような種類がある。

a 産業、業種別合同労組

b 職能、職種別合同労組

例えば、土建（大工、左官） 卸家内工業、漁士、海女等の

合同労組、

c 種々雑多な地域、内至一般合同労組

各県に支部を置く大掛りな全国一般合同労組もある。

なお、未組織労働者はどの位あるかと申しますと、雇用労働者の数は、大体二四〇〇万内至三、五〇〇万（昭三七年六月現在、此

の分布は、大企業三〇%、中小企業七〇%といわれるが、その内訳を表にすると次のとおり。

区 別	割 合	労働者数
組織労働者	三六・二%	八七〇万—九〇〇万
未組織労働者	六三・八%	一、五〇〇万—一、六〇〇万

この表によると、未組織労働者の数は、一、五〇〇万内至一、六〇〇万で、問題は、此の未組織労働者に対する合同労組の問題であります。

参考迄に、組織労働者の色分けを見ますと、総評系約四〇〇万（民青同の活動がある） 全労系約一六〇万—一七〇万、中立系約一二〇万である。

各系統共、種々なる業種を各々その傘下として組織しているものであるが、欧米においては産業別労連を作っている。

我が国においても、鉄鋼労連、全国皮革労連というように逐次産業別労連結成の姿が見られます。

◎合同労組の団体交渉に付いて

仮りに、皆さん会員工場の中で、今迄は、未組織労働者を使用して組合が無かつたのであるが、最近、従業員の内、一部十五名だけが合同労組に加入したとする。

この場合、団体交渉はどうなるか？

この問題は未組織労働者に付いては、今後あり得る問題ですから、御参考迄に。

3. 退職手当金の問題、給与改善の問題

総評本年度指示事項の中に、退職手当金制度の確立と、停年退職金の高額所得せんとする運動を展開しています。

この問題は、中以上の大工場に特に問題になる。中小においては創業以来日が浅いとか、中途入社の人員を抱えて居る同きが多く、差当りは大きな関心事はない。

以上、述べました通り、本年度わが労働界には、三つの大きな問題があるわけです。何れも、経営に取りましては等閑に付することが出来ない事ばかりですから、充分と研究して載き度いものと、存じます。

最後に、企業の発展と、労使のあり方に付いて述べて見度い。

◎企業の発展と労使のあり方に付いての私の所見

私は、戦前、戦後を通じ、或は経営の立場にあり、或は労働の立場にも立ち、どちらかと言えば、楯の両面を知つて居り、学窓を出て社会に入り、約四十年の体験から、特に労使のあり方に付いて所見を述べ、拙稿を閉じ度いと思ひます。

1. 労使関係とは、労組↑↓経営者（使用者）
2. 労資関係とは、労組↑↓出資者（資本家）

米組合法第六条に*

「労働組合の代表者又は労働組合の委任を受けた者は、労働組合又は組合員の為、使用者又は其の団体と労働協約を締結その他の事項に關して交渉する権限を有する。」

右に基くと、其の会員会社の交渉相手は、合同労組の代表者又は其の委任を受けた者であります。

但し、会社と合同労組間で「才三者の委任は認めない。」と、取決めた場合は、委任者は認めない、という事は、普通一般の単独の組合の場合と同様であります。

当問題は十五人だけが、合同労組の場合であるが、勿論、合同労組とは団交しなければならぬが、十五人だけ来た時は団交に応ずる必要はない。

△注意事項Ⅴ かけ込み訴の場合

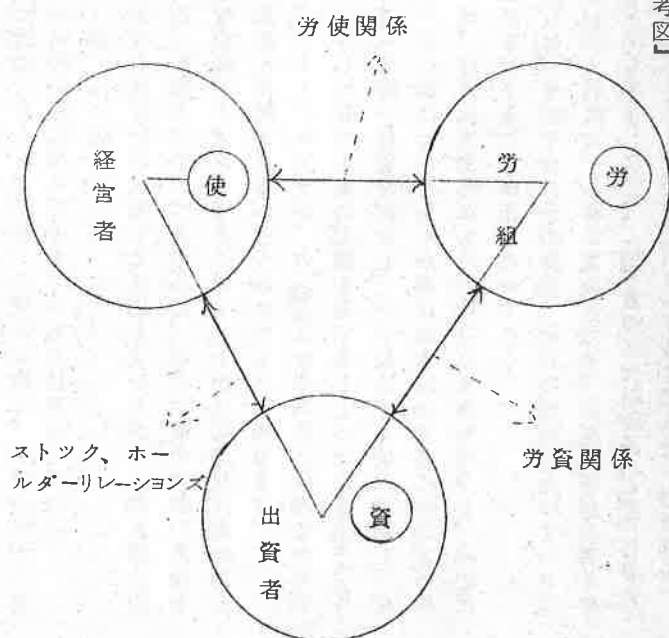
組合の結成もなく、合同労組にも入っていない労働者が、首を切られてから、合同労組に駆け込み訴えをする場合がある。

この場合は、合同労組の代表が来ても、話し合う必要がない。（又は組合法六条の交渉権の規定を見ればわかる様に、組合は組合員の為のみ交渉する権利がある。）

なお、労働者の首を切る場合は「就業規則」の懲戒処分を照して首を切らないと無効になります。

以上、簡単に合同労組の問題に取り上げて見ましたが、……墨東ゴム工業会の会員の皆さん方の中にも、今後この問題は起り得る問題と思ひますので、御参考に供した次第です。

【参考図】



右図の様に、労使関係と労資関係とありますが、大抵の場合、経営者代表は、出資者を代表している場合が多いから、こゝでは如何なる労資関係が企業発展に寄与するか？という事に付いて所見を述べます。

一、労働者を人間として尊重すること

憲法廿七条「すべて国民は勤労の権利を有し、義務を負う。」
憲法廿八条「勤労者の団結する権利、及団体交渉、その他の

団体行動をする権利は、これを保障する。」とありますが、「労働者を人間として尊重する」と言う言も右の憲法の条文に通ずる言葉です。言葉は極めて簡単で………そんな事はいわれなくとも、良くわかつていると、言われると思いますが、………実はホントに、良くわかつている人、よくわかつている経営者は、仲々少ないものである。

具体的には色々ありましようが、私は、先ず経営者は、労働者があつてこそ目的の生産量目的の利益を上げることが可能であるという相関認識を持つ事、これに対し、相手方労働者は、この事業と経営があるから、勤労の権利、義務を行使出来るという相関認識が、お互に必要であると思います。

私は少なく共、経営の立場は、労働に先んじてこの態度を誠意を以て具現することによつて、結果的には経営は労働に対しその言語、態度、扱い方が良く変らざるを得ないので、そうすれば、相手の労働としても、良い反応を必ず示す様になるものと考えます。

すなわち「人間の根底に流れる良識を呼び起す。」……人間は感情、良心を持っています。

経営の態度、誠意によつて、相手の良識に訴える事が、経営の根本要諦であると思います。

かつて、米国のホーソン工場において、経営合理化の研究の結果、最後の結論は、優秀機械の設備の問題もあろう、経費の節減もあろう………が、結局において、人間関係（ヒューマン、リレーションズ）を良くすることに在るという事がわかつた。この話は有名な話であります。「如何に機械がよくても、これを良く扱うのも、悪く扱うのも人間である。」と全く然り

であります。

三 労使双方の相互理解を深めること
問題が起つてからでは遅いので、平素から双方意思疎通を図ることに努めることである。

面倒でも色々な機会を捉えて接触を図ることが必要である。これ等の考え、実行がない限り、其の企業の発展は望む事が出来ないと思ひます。

三 労働組合に付いて正しい理解を持つこと

経営者は、労働組合、職員組合を敵視、疎遠視してはよろしくありません。これではよい結果は出ません。この反対に、労使は常に接近することに努め、労使の会議は、争議の時だけでは其の企業の発展は見る可きものがある筈がありません。

結 論

以上、所論の全容を述べたは居りませんが、（何れ機会を得まして述べる積りです。）要するに、中小企業の事業の発展を左右するものは、トップ、マネージメントがこの労使問題に対して如何に熱意と誠意があるかどうかにかゝつて居ります。

トップ、マネージメントが、労働者よりの尊敬と信頼をもち得ずして、どうして其の企業の発展を期することが出来るであろうか。企業の発展は労働と経営を調をし、その製出する製品を通じ、健康、運動の資に奉仕し、社会から喜ばれる製品を常に製出する事が出来れば、経営及労働何れもその存立の意義を全うし、そこには溢るゝ喜びを禁ずることが出来ないであらう。

其の喜びは、やがては自分の健康、会社の繁栄となつてハネ返り、将来は個人的には、子孫の繁栄となり、企業の隆盛を導く事となる。かく論じ来りました時に、経営者の社会的使命の如何に重大であるかを思ふ次第であります。（長瀬ゴム工業株式会社・労務部長）

豊 京 ゴ ム 工 業 会

の 歩 み

設立まで

1月25日 長瀬ゴム事務所で大川ゴムと会

見、趣意にある通りの必要性を強調し合意を得る。

1月30日 長瀬ゴム事務所で東京ゴム齋藤

氏右川ゴム右川氏と会見し、右と同じに賛同を得て発起人の選

4月5日

入る。

2月23日 オ一回発起人会を同島三とも

開く。

当日は具体的に会員の範囲について検討した結果、十二時以上のローラー一台以上あるものの中からこの趣意に賛同するものに決めた。

当日の出席者は、

長瀬ゴム、東京ゴム、ヒノデワ

ンゴム、鶴岡ゴム、山西ゴム、

大川ゴム、ダブルスターゴム、

右川ゴム、豊国ゴム、東方ゴム、

豊田区民新聞社

3月13日

オ二回発起人会を浅草大阪屋で開き、会則案、名称案等を審議し、各自発起人同志で知り合いの会員候補の名簿を次回に持ち寄ることを決めた。

4月27日

の式次第役割等を決定する。十二時より区民会館に全員出席、一時三十分より総会に入る。

3月27日

設立趣意書、入会申込書、会則等の印刷完了。

各自持ち寄つた名簿によつて、入会方の呼びかけを初める。

式次第 司会大川ゴム

出席者発起人全員

(約八十社)

オ三回発起人会を浅草大阪屋で開く。

開会の辞 右川ゴム

経過報告 長瀬ゴム

議長選出 ヒノデワシゴム

議 事 会則の審議

役員の選出

選衝委員を議長指名にて

大川ゴム、右川ゴム、道明ゴム

ム、東伸ゴム、新光ゴム、片

岡ゴム、山西ゴム以上の七社

新会長挨拶

来賓祝辞 区長、税務事務所長、日刊

工業城東支局長

閉会の辞 鶴岡ゴム

懇親会 安定所長の乾杯

最近のゴム薬品 (上)

技	
	術

原料の進歩で新製品続々

青 江 一 郎

戦後十八年、わが国の原料ゴムの消費量はとうとうその消費見込量が一九六三年度に、天然ゴムは一九八千屯、合成ゴムは一二千屯併せて三二〇千屯に及ぶと発表された。これは単に既知の製品に対する消費量の増加、即ち多量生産によるものであることは勿論であるが、新しい品目の、製品化への利用開発による結果でもあることはたしかである。その方面の専門家によれば一九六四年以後もその消費量は漸増と云われている。

さて現在ゴム製造者は現実要求されている多岐にわたる製品目化と、その増産に対しては、過去のようなゆつくりした製造方法では追いついて行けない。当然製造の迅速化という壁に突当る。否、突当っている。この現実的な要因の解決の第一は、設備

の拡張であり、増設であり、機械類の能率化（大型化、迅速化および改善、ならびに改良）等である。

原料ゴムの絶対使用量の増加は、必然的にゴム用配合薬品類の生産量の増加を招来した。然し現在、ゴム薬品の使命は、単にその生産量の増加ということだけではその任が果たされたとはいえない。それは天然ゴム製品、合成ゴム製品を問わず、使用方面の多角的開発と発展に伴い、その性能も、各種合成ゴム特有の性質を基礎とした多面的、且、多元的な要求がなされるようになった。その結果ゴム薬品類も、出来るだけ、その線に沿って、要求に応え又は満足されるよう、多種多様のものが出現して来た。要するに現在この多くのゴム薬品の生れたこと、育つたことは合成ゴムとの因果関係といえる。

今更、我国における合成ゴムの歴史でもないが、戦前（昭和二十年を境に）にも特殊用として僅かながら使用されていたし、国産品もあつたが、お話しにならない程少量であつて、これに使用された薬品は在来のものでまかなわれたのであつた。ここにいる最近のゴム薬品とは日本で合成ゴムが活発に使用され始めてから以後、我国で製造され、現在に至つた国産品で、戦後と同じ意味とご承知置き願いたい。

さて最近のゴム薬品というと何か特別新しいものであるかに思われるが、大局的には戦前から知られていたものが多い。戦後実際に工業的意味において使用され始めたことを以つて、最近のゴ

ム薬としても相当数にのぼる。それにしても、天然ゴム単独時代に使われたものが戦後、姿を消してしまつたわけではなく、天然ゴムの消費量の増加と共に増産されており、その中のある種のもの

が斜陽族的取扱いを受けているにすぎない。

ゴム用配合薬品と言えは無機物、有機物共にその数をあげることは一寸出来兼ねる程であり、これを別別にあげても相当数になる。

即ち、加硫剤、有機促進剤、老化防止剤、軟化剤（プロセスングオイルを含む）可塑剤、補強剤、充填剤、素練剤、無機及び有機顔料、焦け防止剤、軟化剤、耐油剤、分散剤、耐燃剤、膨脹剤、附香剤、その他、ラテックス関係の界面活性剤、湿潤剤、安定剤、乳化剤、凝固剤、ゲル化剤、濃稠剤、消泡剤、気泡安定剤等々があげられる。これらはいづれも、それぞれの必要性があつて生れて来たものであるし、今後、ポリブタチエンゴム、ポリイソブレンゴム、プロピレンゴム等が実用に供せられんとする現段階においては、今後如何なる新薬品が登場して来るか見当がつかない。



青 江 一 郎 氏

最近の薬品ともなれば、必然的に過去の薬品に触れるのでいささかバイバルめくが、各別表に戦前と戦後の項に○を附して区別し参考とした。

加硫剤、加硫剤の大宗は戦後においても硫黄である。戦後、新と名のつく薬品は、硫黄の使用を避けなければならない場合に使われる。

ジクミルパーオキサイド（ダイカップ）ブチルゴム用のP-キノンジオキシムとP、P-ジベンゾイルキノンジオキシム、同じくハイパロンやネオプレンと併用して用いるアンペロールSTI 37等であろう。その他クロロプレン用のマグネシヤ、リサージ亜鉛華等も古くから使われていたものだが、現在は加硫剤として欠くべからざるものとなつた。

硫黄は相変わらず殆どどのゴムに使用されているが、配合未加硫ゴムにブルーミングを嫌うような場合に使用される不溶性硫黄なるものが出現した。但し、加硫後は一般の硫黄と同じ行為のものとなる。

戦前のもので殆んど使用されなくなつたものは塩化硫黄である。加硫助剤、加硫助剤は亜鉛華、リサージ、ステアリン酸等で、戦前、戦後を通じてよく使用されている。

有機加硫促進剤、現在国産の市販品は四十九種に及んでいて、一般に使用されている著名なもの二十五種は、戦前既に重用されていたものである。

戦後合成ゴムのおつきあいに引張り出されたものは、グアニジン類とアルキルアミン類各一、チャゾール類でMとDMを除いた六種、ジチオ酸塩で十七種中十種、その他二十一メルカプトベン

無機顔料 (表 1)

色別	顔料名	成分その他	戦前	戦後
白	酸化チタン	TiO ₂ 、アナターゼ型とルナル型とがある	○	
	リトポン	BaSO ₄ (73~70%)とZnS(27~30%)とZnO、湿式法と乾式法あり、乾式法にはさらに直接法と間接法がある	○	
	亜鉛華	ZnS	○	
	硫化亜鉛	ZnS	○	
	白色	ZnS、SPbCO ₃ Pb(OH) ₂ 西暦1592~1623年頃より日本にでもつくられた	○	
赤	胡粉	主成分 CaCO ₃	○	
	重炭酸カルシウム	CaCO ₃ 糖晶石灰石を粉砕したもの	○	
	軽炭酸カルシウム	CaCO ₃ 緻密石灰石を原料とし化学反応によりつくる	○	
	弁銀	Fe ₂ O ₃ 硫酸オー鉄を焼いてつくる	○	
	柄朱	HgS、米ともいう古来より有り橙赤色より濃赤色まである	○	
色	カドミウムレッド	大体3CdS、2CdSeに近い組成のものセレン赤ともいう	○	
	カドモポン 赤	硫酸カドミウムと硫化バリウムとセレンを原料としてつくる	○	
	アンチモンオレンジ (ゴールドン)	五硫化アンチモン、Sb ₂ S ₅ を主成分としている	○	
	アンチモン 赤 (クリムソン)	Sb ₂ S ₃ 、アンチモン米とも呼ばれる	○	

インミダズリン、所謂、二十二と称せられるものおよびM、DM、H、TT、CZ等の各種併用混和物五種等計二十四種である。勿論、現実にはこの中には戦後出現したものでも、天然ゴム用としても使用されているものもあり、また戦前からあつたM、DM、TT、TS、D、K等も合成ゴム用として活発に使用されている。しかし、この約五十種に及ぶ市販品の約半数近いものは、合成ゴムの出現によつて生れて来たものと言っても過言ではない。殊にチャゾール系のは、何れも合成ゴムに是非必要な補強充填剤を混合する際、および各種加工行程に際してのスコッチ防止性能とか、また逆に加硫の短時間化という、矛盾する目的の満足化を狙つて生れたもので、遅滞性なる名称を以つて焦げませんよの代名としてゐる。

老化防止剤、国産市販品は現在二十種を数えられるが、戦後市販されたものは九種類である。これは使用範囲と使用性能の実績にもとづくもので、天然、合成ゴムのいづれを問わず、その製品が何であつても、また老化の要因が、耐熱的であろうが、耐候耐光、耐オゾンのいづれであろうが、長もちする様にとの意途を最大の目的にしたもので、特にSBRだから、NRだから、NBRだから必ずこれ、と決つてゐるものではない。

消費者のゴム製品に対する要望は耐熱、耐オゾン、その他要求範囲は相当なものであつて、これに対し老化防止剤は一応効果はあると認められているが、このゴムにはこれを、この用途には

これを使えば先づ安心だ、決定的だとするものは僅かである。老化の要因により、充分な注意のもとに撰択すべきである。

補強充填剤、合成ゴムはその殆んどが純ゴム配合では役にたない。従つて補強充填剤なる栄養剤は欠くことが出来ない。この補強充填剤の最たるものはカーボンブラックであることは、誰も異論はないと思う。

現在ゴム用として市販されている銘柄のものは、別表の如くであるが、これらの中、語尾にFとTとあるものは総て国産品でまかなわれており、チャネルブラックのみ僅かながら輸入されている。これら各種ブラックにつけられた略称は、ゴム用として熱分解物T以外は、その増強方向からとか、使用方向とかから命名されたものである。

戦後登場したファーンズブラックは、合成ゴムの生産量に適合するように、そして合成ゴムの増強化の骨格の一部を成す為の目的に添うように工天、産出されたもので、逆に言えばファーンズブラックの出現なくしては、現在の合成ゴムの発展はあり得なかつたのだと言える。また、ファーンズブラックは如何なる銘柄でも、天然ゴムに対しては合成ゴムの場合と同様な加工性と、加硫特性を与えている。

(以下次号)

マルーン色	ボルドー 10B M ₄ 塩	トビアス酸をベースとする アツ型不溶性	○	
	リソールマルーン	(トビアス酸をベースとし Fe が M ₄ 塩)	○	
黄色	ハンザエロー G	m-ニトロ-p-トルイジンとアセト酢酸アニライドとのカッスリング	○	
	" " 3G	0-ニトロ-p-フロルアニリン とアセト酢酸アニライド のカッスリング	○	
	" " 10G	0-ニトロ-p-フロルアニリンとアセト酢酸-0-フロルアニライド のカッスリング	○	
	ベンテジンエロー	3,3'-ジフロルベンゼンをベースとしアセト酢酸アニライドとのカッスリング	○	
	" " G	3,3'-ジフロルベンテジンとアセト酢酸-0-トルイダイドとのカッスリング	○	
	" " 10G	6,6'-ジフロル-3,3'-ジメトシベンテジンとアセト酢酸アニライド	○	
	" " R	3,3'-ジメトオキシベンテジンとアセト酢酸-m-キシリダイド	○	
橙色	ペルシマンオレンジ (オレンジ II)	スルファニル酸とβナフトール (Ba 塩)	○	
	オルトニトロアニリン オレンジ		○	
緑色	フタロシヤニングリーン	塩素化銅フタロシヤニンである ヘリオゲングリーン、モナストラルグリーンともいう	○	
	マラカイトグリーン	塩基性	○	
	ブリリアントグリーン	塩基性、W 塩	○	
青色	ビクトリアブルー	塩基性 W 塩	○	
	ピーコックブルー	酸性、塩基性 W 塩	○	
	モナストラルブルー (フタロシヤニンブルー B)	銅フタロシヤニン、フタロニトリルと金属銅又は塩化銅	○	

黄色	カドミウム 黄色	CdS を主成分とする P ₂ C ₁₂ O ₄ 、クローム酸鉛でありクローム黄ともいう	○	
	重 鉛 黄	Zn Cr O ₄ を主成分とし K ₂ Cr ₂ O ₇ と Zn O の少量を含む	○	
青色	グンジョウ (群青)	ウルトラマリンとも呼ぶ 組成はアルミナ及びナトリウの珪酸塩と硫化物	○	
	コンジョウ (紺青)	Fe ₄ [Fe(CN) ₆] ₃ 或は K ₃ Fe ₃ [Fe(CN) ₆] ₃ を主成分とする	○	
	コバルト 青	CoOAl ₂ O ₃ を主成分とする コバルトブルー、テナール青ともいう	○	

有機顔料 (オ 2 表)

色別	顔料名	成分その他	戦前	戦後
赤 (ズ) 色	パラレウド	アゾ、不溶性	○	
	トルイジンレウド	パラニトロアニリンをベースとする m-ニトロ-p-トルイジンをベースとする	○	
	レーフレッド C	スーフローラー-p-トルイジン-4-スルファン酸 (ベース)	○	
	リリールレウド	スナフチラミン、スルファオン酸 (トビアス酸 (ベース))	○	
	リソール、ルビン BN	p-トルイジン-0-スルファオン酸とβオキシナフトエ酸とのカッスリング	○	
	ブリリアントカミン 6B	p-トルイジン-m-スルファオン酸とβオキシナフトエ酸とのカッスリング	○	
	レーフレッド D	アンスラニール酸をベースとする	○	

遷東ゴム綺談

(1)



金子秀男

ゴム屋故郷

その頃の言葉で、「川向うのゴム屋の巣」へ私が出没し初めたのは、昭和六年頃だから三十数年前の昔話になる。所謂、空気物と言われたゴム浮袋や玩具の輸出華やかなりし頃で、向島のお茶屋がゴム屋の旦那でなければ夜も日も明けぬと言われたグッドオールドデースである。

所が、かく申す私はと言うと、炭カル屋の一外交（その頃は誇り高いセールスエンジニアなどは通用しなかつた）に過ぎなかつた。従つて何処のゴム工場へ行つても、戦場みたいで、足の踏場もない。其処へ押掛けて、桑名の山奥で、水車でゴムロールを廻し乍ら試験をやつた自艶華の効能書をしやべろうと言うのだから、相手にされる筈がない。赤玉を何袋届けるとか、一銭八厘（封度建値）を

一厘負けると言われるのが有難い方で、御用聞き宜敷く炭カルは間に合っているよと門前払いされるのが普通であつた。瘠せても枯れても、アメリカ迄渡つてゴムの大学を舌字して帰つた私としては之が誠に有難い人生修業になつた。私は彼地でも貧乏人の多い下町の方が、金持ちの多い山の手より、人間が暖か味があり暮し易い事を体験で知つていた。

山谷のドヤ街で五銭也の朝食でエネルギーを噛み込んで、ゴム屋街になぐり込みを掛ける程、私は若く元氣でもあつた。そして二度、三度と押掛けるうちに乱暴な言葉や、ゴチャ／＼したゴム工場の雰囲気にも慣れ、配合師（當時はゴム技術者の代名詞だつた）さん等とも自由に口が聞ける様になつたのである。

私自身も理屈やデータ数字で、一通り

ゴムは知つた積りであつたが、実際の製造加工の細い芸になるとサツパリで、自田に工場に入りが許されて見たり、聞いたりしているうちに、教わる事が多かつたのである。更に有難い事には浮袋以外にも、水枕、爪掛け、工業型物、消ゴム等色々なゴム製品が、路道の奥まつた零細な台所式工場で見事に作られている現実も知る事が出来た。「けつあぶり」の仇名のあつた煉炭式ベレス、しんし針式スプレッターなど原始的と言うより、当時のゴム屋さんの知恵のタクマシさを眺め、アメリカの大工場でこの目で見て来た以上の技術を、遷東の小工場では私より多く学んだのであつた。

其の後、年移り星変り、私自身も持つて生れた放浪性か、武者修業の真似か知らぬが、方々ろつき廻つて来たが、ふと気が付いたら何時の間にか昔懐しい川向うのゴム屋の巣に舞戻つた様な恰好

になつてゐるではないか。

技術士と言えば偉らそうに聞えるかも知れぬが、一介の街のルンペン（昭和六年頃流行した言葉だ）的ゴム屋に過ぎない。皆さんと同様ゴムを離れては生活力の無い人間一匹である。だから鮭の帰郷本能みたいに不思議な力で、「川向う」に引張り寄せられたとも考えられる。そのせいか、遷東ゴム工業会で皆さんと顔を合せ、お話しする時不思議な心の安らぎや喜びが湧いて来る。

ゴム屋風景

その頃はゴム工業なんて気取つたものでなくゴミ屋で、社長は大将と言ひ、ゴム相場で儲けるか損するか勝負師流が多かつた。従つて配合師の方も負けず珍品が多く職人氣質丸だし、妙に利口振らず誠に愉快な仲間であつた。

或る人は、配合陰陽説を私に教えてく

れた。ゴムは天の太陽の思ひで出来の物だから陽、炭カルや硫黄は地の思ひだから陰、陰と陽が合体してゴム製品が出来上るのだという高説である。或る人は、硫黄は三角の結晶であるが、加硫すると四角になつてゴムの中によく収まる。（成程遊離硫黄は三角に見える事がある）或る人は、ドレーンの臭気で、加硫釜の中の加硫状態をドンビシヤリ当てる事を自慢にしていた。或る人は、配合を定める場合、無念無想の境地に達し神が仏か判らぬがお告げを待つ由である。

勿論、中には高等工業を出られた立派な技術者もおられたが、今、例に出した様な実地で、たゞき上げた方が多く、私などはこういつた一風変つた職人さん達と馬が合つた。そして理論を越えた技術根性とか、精進と言つたものをたゞき込まれて行つたらしい。

当時の遷東風景は、永井荷風山人の正

調「東綺談」を読みたい。抜けられすの看板の沢山あつた玉の井などもゴム屋の菓のと真中であつたので嫌でも好きでも通り抜けねばならなかつた。道路の悪かつた事、どぶ川の臭かつた事、今では全部懐しい思い出だが、昔をしのぶよすがも無い。浮母車にゴム薬品を積んで、硫黄何匁、色素何十匁と行商する風景などは、如何にもゴム屋街ならではの添景であつた。狭い迷路の様な小路を一軒しらみつぶしにゴム屋を廻り、隅田川の涼風で浅草の明るい灯を見た時、やれやれと言つた気持ちに解放されたものである。

新しい

墨東ゴム工業会

私は、現在長瀬ゴムを初めこの地区の二、三のゴム工場の技術顧問をやつていて、創立以来お手伝いをさせて貰つてゐるが、前述の如く内心甚だ楽しいものがある。

勿論、三十年昔と違い内容的にも、外

観的にも、墨東地区のゴム工業の在り方はすつかり変貌、革新されている。戦時中及び後の幾多の辛苦艱難（小企業なる為の）を乗り越え、新しい出発にも誠に大地にどつしりと根を下し、踏張つた力強さを私は感得している。

ゴム工業に限らず、総ての企業は資本力、労働力、技術力以外に天を育て上げる環境、伝統と言つた一種の底力の必要な事を忘れてはならない。

私は多少なりとも、墨東ゴム地区の昔話を知つてゐる。そして現在も、嬉しい事に昔のゴム屋根性と言つた大きな底力が、脈々として生き、永らえている事を見出している。狭い道路の奥の狭い工場で、黙々と生産にいそしむ多くのゴム屋さんの姿を昔の儘に見る。そして、昔年らの人清味の溢れている下町情緒がそれを包んでいる。

人、或るいは旧体依然、大資本近代化の併呑と哀むかも知れぬが、ゴム工業の特殊性、殊に製品の多種多能化に伴う小規模生産工場の必要は絶対的である。（ゴム製品の種類は天然ゴム時代の三万種から合成ゴム時代の五万種に達した）

皆さんの内には失礼だが、小さい工場だからと言つて、妙に卑屈になられる方があつても知れぬが、小さい工場程、利益率が良いのがゴム工業の特質で、下手に拡張するとガツカリされるかも知れない。私の理想とするゴム工場は潜水艦の様な空間を合理的に利用した二十人単位の小工場で、機動力をフルに動かしたら大企業の戦艦でも恐るゝに足らない。

初回なので長々と懐古趣味や、夢物語を書かせていたが、この次から為になるゴム技術のお話でもしよう。良薬口に苦し、面白くないかも知れぬが我慢して吞んでいただく事を今からお願ひする。

（技術士 工学博士）

墨東ゴム工業会 報告

七月度理事会

昭和三十八年七月度理事会を七月十九日午後

五時から大川ゴム二階会議室で開きました。

この日の決議事項は次のとおり。

一、会則を一部変更、庶務、会計を設置することとし、庶務、会計部長に右川洪輔氏を選出した。

二、これまで欠員となつていた経営部会長に斎藤貞之助氏を選出した。

三、三十八年度事業計画を会員各位からのアンケートに基いて各事業計画を次の通り決定した。

①講習、研究に關する事項は従来通り。
②外部団体の講習、研究に対する紹介、協力は従来通り、ただし積極的に行なう。
③図書購入斡旋に關する事項は技術部が主体となつて出版物の目録等を会報で流し、希望者を募つて有料斡旋し値引き等を会場で交渉する。

④旅行会は親睦を目的とした旅行とし、世

話を決めて十一月頃行なう。春季に旅行先で総会を行なう件に關しては後日検討する。

⑤レクリエーションの協同化に關する事項は旅行会のみを一応決定し、映画の会、卓球大会等は保留とする。

⑥火災保険の料率引下げ方策の研究は経済部に依頼、研究する。小委員会を設ける。

⑦薬品購入価格の回報は反対者が多く、参考資料程度を回報で流す。

⑧永年勤続者の表彰は経営部会長の下に小委員会（地域別に五人位）を設置して、具体案を作る。骨子となる対照は希望事業所のみ、表彰状は会費から、賞品は事業主負担とする。

⑨給食施設の研究会は会報で既設のものを紹介する程度とする。



8月度理事会で説明する斎藤技術部会長（中央右）

⑩ 健康保険総合組合設立の研究Ⅱ経済部会に依頼研究することとし、小委員会を設けて再検討する。

⑪ 青年部会の設立についてⅡ部会を作る必要なしの意見が多く経営者の子弟が任意にクラブ活動的に各部会に協力、会報の発行等を推進する。

⑫ 会報の発行Ⅱ庶務係の担当とし、隔月発行に決定、庶務の下に編集委員会を設ける編集委員の人選は若手の内から選ぶ。

⑬ 東京都商工指導所による小企業診断の申込みについて協議した結果、アンケートによる希望事業所二十社を対照に行なうこととし、方法は事務局に一任することに決定。
四三十八年度予算案の件Ⅱ別項の通り決定した。

昭和38年度歳入歳出予算書

1.	歳入	金	2,036,370-
2.	歳出	金	1,102,000-
3.	差引	残高	834,370-

1. 歳入内訳

項目	38年度予算	37年度決算	摘要
会費	1,092,000	790,000	
雑収入	10,000	6,165	
臨時会費(旅行会)		66,500	
寄附金(旅行会)		61,742	
繰越金	642,370	2,100	
未収入金	292,000		
合計	2,036,370	932,507	

2. 歳出内訳

項目	38年度歳出見込	37年度歳出	摘要
業務費	881,000	290,137	業務費内訳通り
予備費	155,370		
事務所建設資金繰入れ	1,000,000		
合計	2,036,370	290,137	

八月度理事会

八月十六日午後六時三十分から大川護

謨二階会議室で八月度理事会を開き、さきに決定した会報発行に関して報告を行なうとともに、技術講演に関する件、永年勤続者の表彰に関する件、旅行会の世話人に関する件、その他について審議した。

その結果、ゴム技術講演については、ゴムの初歩的な技術知識を金子秀男氏などを講師に招き行なうこととし、期間、場所、費用その他については、近く技術部会で具体的に検討して決める。永年勤続者の表彰は小委員会を設置して人選を進めるなどを決定した。また、旅行会の世話人には庶務部長の右川洪輔氏を選出した。

この日、斎藤正勝、菅谷辰天、若山晴光(大川ゴム)、酒井幸蔵、毛利英治、西山公平、今田隆吉、遠藤泰氏らが出席、まず菅谷経営部会長が立つて「墨東ゴム工業会は発足してまだ日も浅いので種々の事業も小幅な歩みに止まっているが、会報の発行などその他会の事業も着々と進めているので

遠からず皆様に満足していただける会にならうと思う。いろいろご審議の上、ますます

会を発展させて行つてもらいたい」と挨拶次で斎藤正勝氏(東京ゴム製作所)が議長となり、①会報発行に関する件 ②技術講演に関する件 ③永年勤続者の表彰に関する件 ④旅行会の件 ⑤九月度理事会開催の件の各項を審議、それぞれ次のように決定した。

一、会報発行について酒井幸蔵氏(酒井ゴム)から編集方針、編集費用などの報告が行われ全員これを了承した。

二、技術講演については、八月二十七日、金子氏を講師に招き講演会を開く。またゴム技術講習会を六日間くらいで開き中卒者にもわかる程度の初歩的なゴムの技術の講習を行なうこととし、講習会の費用、日時、講師などについての企画はさらに技術部会で具体的に検討することとし、永年勤続者の表彰については経営部会(菅谷部会長)の提案により、次の小委員を

決定、同小委員会が今後の準備を進めることを決めた。

小委員は斎藤正勝、道明澤雄、佐藤竹松、高橋善茂、遠藤泰の五氏なお小委員のうち高橋、遠藤の両氏は役員でないため、この日、改めて役員会の決議により理事に選任した。

そのほか旅行会開催については、右川庶務部長に一任する。九年度の理事会は九月二十日午後六時から大川護謨会議室で開くことに決定した。

ゴム関係は四十四件

昭和二十五年以来の技術導入

通産省は四日、昭和三十八年七月中における外資導入関係案件の処理状況を発表した。
それによると昭和二十五年から三十八年までの技術認可件数は二千二百七十七件でこのうちゴム及び皮革製品製造業の技術援助契約締結の認可件数は四十四件(昭和二十五年以降三十八年七月末認可累計であつた。

☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆

酒井委員長を選任 副に長瀬・堀内の両氏

☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆

第一回編集委員会

本会会
報編集委
村田編集次長が出席各編集委員の質問に答えた。

員会は八月十三日、ホテル・ニュージャパ
ンで第一回編集会議を開いた。この日、ま

王な議事は次のとおり。

から背尾益二郎の二氏が出席、編集委員の互
選により酒井幸蔵氏を選出、引きつゞき酒井
編集委員長から副委員長に長瀬二郎、堀内正
雄の両氏の指名があり、全員これを了承した。

三編集方針の決定

会報の編集方針を次のように決めた。

「会員の親睦を目的とし、技術、経営、経済
の各方面にわたつて、企業の運営、発展に資す
る内容と共に、会の事業報告内容をも含むも
のとする」

三小委員会設置について

酒井幸蔵（酒井ゴム）堀内正雄（東京ゴ
ム製作所）大野耕一（ダブルスターゴム）
右川清天（右川ゴム）鯉淵 時（鯉淵ゴム）
遠藤泰（日興ゴム）今田隆吉（東都ゴム）
西山俱之（山西ゴム）関屋（昭和ラバー）
新発田 和（大川ゴム）芦沢栄二郎（芦沢
ゴム）菅谷満良（ヒノデワシゴム）ら編集
委員十一氏と庶務部長右川洪輔氏、事務局

三小委員会設置について
今田編集委員から掲載の内容を決めるのが
われわれの役目と考えるが、各委員それぞれ
意見が多いと思うので部門別、地区別、企業
内容、その他に分類してグループをつくり、
検討すべきだと提案があり、次回編集会議で
小委員会を設置して審議することを決めた。

また、会報である以上編集委員には編集の専
門家はいないので講演会などを主にしたもの
を掲載した方が安易であるとの意見も出たが
今後の計画は、各々が腹案をもちより検討す
ることとした。



酒井委員長



長瀬副委員長



堀内副委員長

四編集委員の任期は明年三月まで

今回選ばれた編集委員は時間的に会員全
体から有志を選ぶことが出来なかつたので
委員の任期を明年三月までとし、四月に改
めて希望者から委員を選ぶことを決めた。

五創刊号編集内容について

創刊号の編集内容を①創刊を祝して（日
本ゴム工業会々々）②同（墨田区長）③
創刊の辞（長瀬会長）④同（菅谷）⑤（新
発田）⑥寄稿：技術（金子）⑦同（青江）
⑧経営（岩上）⑨役員会議事録⑩会員消息
費⑪アンケート⑫業界ニュース⑬随筆⑭雑
稿⑮編集委員会の紹介、などとすることを
決めた。

六予算

明年三月まで編集予算として支出①編集
費八万円②印刷費六万八千円③原稿料六万
円④会合費四万円⑤広告印刷料五万円⑥予
備費六千円、計三十四万四千円。収入として
広告料十四万四千円、会費予算十六万円、
計三十万四千円を計上した。

七報告事項

会報発行準備について経過報告（背尾）
七月十日 アンケートを集計した結果、会
報を発行した方がよい（二十四）、関心が

ない（五）、必要ない（二）の回答を得たの
で多数決により会報発行にふみ切る。
七月十九日 役員会で隔月発行に決定、庶務
担当とし、その下に編集委員会を作る。

これを青年部で推進す（予算十
六万円）に決定した。

七月二十九日 ゴムタイムス社
に発行費用概算をきく。

八月六日 発起人会を永藤で開
き、委員会参加を会員に呼びか
けるとともに、編集方針案と大
体の内容を内定。発刊を九月十
五日、原稿締切日を八月二十五
日とした。



「写真説明」編集会議で挨拶す
る右川庶務部長（中央）

編集委員名簿

△委員長 酒井幸蔵 (山西ゴム製練所) △副委員長 長瀬二郎 (長瀬ゴム) △副委員長 堀内正雄 (東京ゴム製作所) △委員 大野耕一 (ダブルスターゴム) △右川清天 (右川ゴム製造所) △鯉淵時 (鯉淵ゴム工業所) △佐藤繁雄 (東方ゴム工業) △遠藤泰 (日興ゴム工業) △今田隆吉 (東都ゴム製作所) △毛利英治 (森清ゴム) △高木亀一 (吾婦) △間吉哉 (間ゴム工業) △西山俱進 (間ゴム工業) △新発田和 (大川ゴム工業) △芦沢栄二郎 (芦沢ゴム) △川口博正 (七洋ゴム) △菅谷満良 (ヒノデワンゴム工業) △関屋 (昭和ラバー) △新発田和 (大川ゴム工業) △菅谷満良 (ヒノデワンゴム工業) △関屋 (昭和ラバー)

原稿募集

「墨東ゴム工業会・会報」の原稿を募集いたしております。批判、随想などなんでも題材は結構です。字数は四百字詰め原稿用紙で二〜三枚、または五〜六枚。締切り日はとくに設けておりませんが十月二十五日以降到着分は、明年一月発行の才三号に掲載することになります。あて先は本会事務局。

多数の方
々のご投
稿をお待
ちいたし
ておりま
す。



アンケート結果 (三十八年度事業計画)

墨東ゴム工業会は、本年度の事業計画を立案するに当つて、去る七月、会員各社(七十社)に十三項目にわたるアンケートを送つて、調査を行つた結果、四十二社(六〇%)が回答し、次のような集計を得ました。

なお、この調査をもとに、七月十七日より、八月十三日に、理事会を開き、技術部会では、技術講習の開催を、庶務では会報の発行を具体化させております。

アンケート質問要項とその回答要旨は次のとおり、カッコ内はアンケート集計数。

一、講習、研究に関する事項

A 種類について

①技術的な講習がよい(二十六) ②経済部会の経理、融資、税務対策などの講習がよい(八) ③経営部会の求人対策賞金問題の講習がよい(十二) ④一般的な興味のある講演がよい(五)

B 方法について

①従来通りでよい(二十一) ②座談方式がよい(八) ③地域別に巡回して指導する(三) ④質問事項を事務局でまとめて定期的に質疑応答する(三)

C 内容について

①従来通りでよい(十八) ②難しいから程度を下げる(五) ③講演時間が長すぎる(一) ④もつと時間を長くして内容を充実する(三) ⑤実際に薬品を使って指導する(三) ⑥合成主体でなく、天然ゴム、ラテックス製品についてやつてほしい(十一)

D その他

①欠席者に講演内容をまとめて郵送する(十八) ②テーブルコーダーに取りファイルムを希望により廻覧(五) ③その他(〇)

二、外部団体の講習、研究に対する紹介、協力

①従来通りでよい(十六) ②もつと積極的にやれ(七) ③必要なし(二) ④関心がな(五)

三、図書購入斡旋に関する事項

A 必要である(三十三) ①種類②技術的なものがよい(十八) ③技術的なものに限らず広範囲にする(十六) ④方法⑤工業会で推薦する(十三) ⑥希望者を募り有料配布する(十四)

B 必要なし(二)
C どちらでもよい(一)

四、旅行会

①方法②単なる親睦的な旅行会がよい(二十二) ③旅行先で講演会や見学会を開く(十四) ④行先⑤湘南方面(十七) ⑥北関東(四) ⑦その他(二) ⑧費用⑨参加者負担(十三) ⑩会費から一

一部出す(十八)

五、リクリエーションについて

(下記の事項を工業会が、主催した場合参加しますか)

A 会員を対照とした場合

○ボートレース(三) ○ゴルフ(三) ○旅行会(十六) ○その他(一)

B 従業員を含む場合

○卓球大会(五) ○野球大会(五) ○運動会(五) ○映画の会(八) ○その他(一)

C 右記いずれも反対である(三)

D 関心がない(八)

六、火災保険料引下げ案の研究

(会員が火保に団体加入する)

A やった方がよい(十八)

①方法Ⅱの代理店を通じて団体加入し、マージンを割引させて一括委託する(九)

②墨東ゴム工業会が代理店となつて、集金、事務等を工業会で行う(四)

B 時期尚早である(八)

C 関心がない(三)

D 反対である(三)

七、著品購入価格の回報

A やった方がよい(十二)

B 必要なし(十八)

①各社各々購入事情が異なるので、やつても効果がない(十三) ②他社に知られたくない(〇)

八、永年勤続者の表彰

A やった方がよい(二十二)

①方法Ⅱ墨東ゴム工業会で表彰する(十六) ②他の権威ある団体に依頼し、そこから表彰してもらう(例商工会議所)(七)

③対照(貴方の工場では下記の該当者が何人居ますか) ④5年以上() ⑤10年以上() ⑥15年以上() この間に對しては、ほとんど回答がなく省略します。

B 必要なし(三)

①既に行っている(〇) ②意味がない(〇)

C 時期尚早(一)

D 意見なし(三)

九、給食施設の研究

(慎重な研究を要しますが御意見を伺います)

A 共同給食施設を設けた方がよい(十一)

B 既設の施設を利用した方がよい(八)

C 時期尚早である(六)

D 必要なし(十一)

①既に社内を持つている(六) ②共同の給食施設は金がかゝりすぎる(一) ③関心が

十、健康保健組合設立の研究

(東京都内ゴム事業所の12以上、全従業員の12以上の同意を要し保険料金の軽減を主目的とする)

A 委員会を作つて研究する(十八)

B 時期尚早(十)

C 必要なし(五)

十一、青年部会の設立について

A 賛成である(十三)

①構成Ⅱの年令二十〜四五(四) ②年令二十五〜四十五(九)

③資格Ⅱの会社の指導的立場にある人(七)

④次代の指導的立場につく人(三)

⑤行事内容Ⅱの各部会、委員会で積極的な活動する(九) ⑥社会奉仕的な仕事(〇)

B 必要なし(十二)

十二、会報の発行

A やった方がよい(二十四)

①編集方法Ⅱの委員会を設けて工業会で編集する(十) ②委員会を設けて編集方針を指示し、ゴムタイムズに委嘱する(十四)

③月刊(七) ④隔月(十) ⑤年二回(二)

⑥年四回(六)

⑦内容についてⅡの講演会、理事会等の広報、会員の消息等を主体とする(十六) ⑧一般の興味を引くものがよい(十七)

B 関心がない(五)

C 必要なし(二)

十三、東京都商工指導所による

小規模事業診断について

(無料)

A 希望する(二十)

B 希望しない(四)

C どちらでもよい(十三)

原料ゴムの供給需要を占める

合成、天然いずれも増加、尤月一日付けのニューヨークタイムズ紙は、世界のゴム産業について次のような特集記事を掲載している。

年初来の米国の輸入量に関するかぎりは合成ゴムが天然ゴムを上回っているが、RSS 一号の三十日のニューヨーク市場がポンド当り二四・五セントと九年来の安値に落ち込んでいるにもかかわらず、天然ゴム業界は意外に平然としている。

東南アジアのゴム生産国を代表するワシントンの貿易商グループのスポークス

マンは「なんといつても天然の用途は広く、生産コストもさらに引き下げることができると強気の見通しを述べているマラヤを中心とする東南アジアのゴムとの対抗上、値下げに全力をあげており、生産コストの切り下げいいかえれば生産の合理化にばく大な資金を投じている現在では一軒当たりの収獲高は二千ポンドにはね上がり、一九五五年と比較して生産性は三三%上昇している。しかし昨年は生産高の面で合成ゴムが天然ゴムを上回ったが、ことは消費量でも合成ゴムが初めて天然ゴムを抜くのではないかと予想される。国際ゴム研究会は本年の自由世界のゴム供給量を約二百一十六万五千トン(米政府の八万五千トンの備蓄放出を含む)、消費量を二百十九万五千トンと見積もっている。一方、合成ゴムは供給二百三十九万三千トンに対し、消費二百三十一万トンと推定され、いずれも供給が消費を上回ることになりそうである。



工業会・耐用年数で要望

日本ゴム工業会は、政府が三十九年度税制改正の方向として企業減税中心案を打ち出し、その一環として固定資産の償却制度を再検討中であるのにかんがみ、かねてからゴム製品製造機械装置の耐用年数について検討を重ねていたが、このほど次のとおり結論に達したので、要望書を作成、通産省倉八輕工業局長に提出した。

要望書の内容は昭和三十六年の耐用年数改正が必ずしも業界の要望が十分に受け入れられなかつたし、また、業種間に不均衡を生じたことは遺憾であつたとして、その後の機械ならびに技術の進歩の状況を考慮して別表のとおり要望している。

ゴム製品の希望耐用年数一覧表

番別号表	設備の種類	希望耐用年数	摘 要	現行耐用年数
五二一	タイヤまたはチューブ製造設備	一二	耐用年数を短縮するとともに企業主の意志により二〇%の幅で自主償却ができる制度を導入する。	一五
五二四	工業用ゴムベルト製造設備	一二		一六
五二二	ゴム製はき物またははき物用ゴム底製造設備	一二		一六
五二五	ゴムホースその他の工業用ゴム製品製造設備	一二		一六
五二六	ゴム引布製造設備	一二		一六
五二七	医療用ゴム製品製造設備	一二		一五
八三七	ゴム製玩具または運動用品製造設備	一二		一五
五三〇	その他の特掲されていないゴム製品製造設備	一二		一八
五二八	ゴム製品製造設備	一〇		一〇
五二九	紡糸法による糸ゴム製造設備	一〇		一〇
五二三	再生ゴム製造設備	一〇		一四

再生ゴムの輸出漸増

再生ゴム業界は手形期間の長期化に悩ま

される一方、原料である屑ゴムの蒐荷費の増嵩に苦しめられているが、最近屑ゴムの

日本製靴用品工業会が発足

かねてから設立準備中の日本製靴用品工業会の創立総会は八月二日東京虎ノ門の晩翠軒で開かれた。当日は、会員企業十三社（本会関係では国際ゴム大日ゴムの二社）のほか来賓として日本ゴム工業会専務理事岡田孝治郎氏、前日本ゴム工業会履物部長根岸亮一氏などが出席し、会議は前身団体である合成底懇談会会長山田光治郎氏（東京・山田ゴム社長）が仮議長席に就き議事にはいつたが、①創立に関する経過報告②会則制定③理事・監事選任④会費の順に審議、それぞれ原案どおり万場一致可決した。

会長 安倍剛造（昭和護謨取締役社長）
理事 中西克寛（東洋ゴム工業取締役）
中村二郎（大日ゴム常務取締役）
平川誠天（日本ゴム常務取締役）
山田光治郎（山田護謨取締役社長）
新井大洪（国際ゴム常務取締役）
監事

天然ゴム10年ぶりの安値

シンガポールの天然ゴム相場は、さる七月五年ぶりの安値を出して以来、依然として下回傾向をたどっているが八月には八日に一号品が約十年ぶりに六九セオと七十セント台を割り、安値をつけた。このため輸入商社、ゴム取引所などでの後の成り行きが注目されていたが、現地相場の下げはおさまらず二十二日にはさらに大幅安の六六 $\frac{1}{4}$ セントをだすに至つた。こうした情勢を反映して、クアラルンプールの大手シッパであるスンジョーの倒産も伝えられるなど関係者は今後の事態を注視している。また生ゴム相場の急落がメーカーにあたえる影響も考えられ、原料安による製品の買いたたきの兆しも現われている。

輸出が漸増して国内の屑ゴム市場に微妙な影響を与え、再生ゴムのコスト高必至とみられるに至り、成行きが案じられている。すなわち、屑ゴム輸出の漸増傾向は一昨年秋頃より特に目立ち、再生ゴム業界でも問題視して来たが、何分にも外貨獲得に貢献しているため表面的な反対運動も出来ずに今日に至っている。が、本年に入つてもとくに中共、台湾、香港地区に対する輸出の漸増傾向は止まず、このままに放置する場合は再生ゴムの原価高は免れまいとして問題化しているものである。

昨年度における屑ゴムの輸出高はタイヤ屑一九七セトン、古屑二六二四トン、合計四五九二トンで数量的には内地の屑ゴム需給を圧迫する材料とはなっていないが、それでなくても蒐荷費が高み屑ゴム価格が強気配に移っているの再生ゴム業界で問題視しているのだが、この輸出された屑ゴムが何に使用されているのか不明で反対運動を展開する根拠にならないので、結局再生ゴムの価格を引き上げるしかないというのが一般の見通しとなつてゐる。

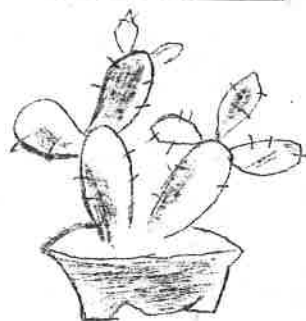
墨 東 ゴ ム

企 業 名	代 表 者	所 在 地	電 話	工 業 会 役 名
千代田ゴム株式会社	倉田 幸一	東京都墨田区隅田町 4~148	(611) 3436	
鶴岡ゴム工業株式会社	鶴岡 秀世	" 吾婦町東 3~42	(611) 0056	常任理事 技術部会副部長
株式会社東京ゴム製作所	堀内 清一	" 隅田町 2~1303	(611) 3106	副会長 技術部会長
東興ゴム工業株式会社	佐藤 留吉	" " 4~188	(611) 9166	
東伸ゴム工業株式会社	藤山 一	" " 4~150	(611) 6708	常任理事 技術部会理事
株式会社東都ゴム製作所	今田 光信	" " 1~1271	(611) 5191	会計監査 経営部会副部長
東武ゴム工業株式会社	中野 正勝	" 寺島町 6~66	(611) 6005	
東方ゴム株式会社	佐藤 竹松	" 吾婦町東 3~30	(611) 2749	常任理事 経営部会理事
道明ゴム工業株式会社	道明 滝雄	" " 4~129	(611) 5444	" "
東明産業株式会社	保谷 昌平	" 寺島町 8~103	(611) 3609	
常盤化成(株)	碓井 三郎	" 吾婦町東 2~19	(611) 2772	
富岡調帯株式会社	富岡 五郎	" 寺島町 3~37	(611) 4569	会計監査 経営部会理事
(株)富里製作所	富里 明一	" 平川橋 3~1	(622) 4434	
中川ゴム株式会社	斎藤貞之助	" 寺島町 3~40	(612) 4176	常任理事 経営部会副部長
長瀬ゴム工業株式会社	長瀬 泰吉	" 隅田町 1~1233	(611) 3171	会 長
日興護謨工業株式会社	遠藤 英信	" " 1~1232	(611) 6631	理 事
間ゴム工業株式会社	間 吉哉	" 寺島町 8~105	(611) 4076	常任理事 技術部会理事
ヒノデワシゴム工業株式会社	菅谷 辰夫	" " 1~97	(611) 3156	" 経営部会長
(株)福岡製作所	福岡新一郎	" 吾婦町西 7~61	(612) 1094	" 経営部会理事
株式会社信川護謨工業所	康本 龜範	" " 3~4	(612) 1364	
堀田ゴム工業株式会社	堀田清次郎	" 寺島町 7~123	(612) 3537	
堀川護謨工業株式会社	堀川 甲	" " 6~149	(612) 2186	
同島化学工業株式会社	飯田 久義	" 請 地 78	(622) 8079	
武藤ゴム工業株式会社	武藤 吉一	" 吾婦町西 8~53	(611) 1581	" 経営部会理事
森清化工株式会社	毛利 英夫	" " 8~2	(611) 1144	
森清ゴム工業株式会社	毛利 英治	" " 東 4~1	(612) 0101	" 技術部会理事
海南ゴム工業株式会社	安田 徳喜	" " 西 9~43	(611) 5393	
山角ゴム工業株式会社	山角徳太郎	" 寺島町 3~35	(611) 3731	
山崎化学(株)	山崎 春次	" 隅田町 4~1104	(611) 6696	" 技術部会理事
(株)山西ゴム製練所	西山 公平	" 吾婦町東 4~8	(611) 4842	" 経済部会理事
株式会社若山ゴム	保 保	" 寺島町 7~107	(612) 7415	
株式会社杉野ゴム化学工業所	杉野 健治	東京都葛飾区青戸町 1~1774	(691) 5732	
株式会社七洋ゴム工業	川口 博正	" 足立区関屋町 16	(881) 4821	
(株)八幡ゴム工業所	石川 義夫	" 墨田区吾婦町西 6~105	(611) 0463	

工 業 会 名 簿

企 業 名	代 表 者	所 在 地	電 話	工 業 会 役 名
芦沢ゴム株式会社	芦沢栄二郎	東京都墨田区請地 87	(622) 3564	
吾婦ラバー株式会社	高木 亀一	" 吾婦町東 4~40	(612) 7176	
(株)右川ゴム製造所	右川 洪輔	" 隅田町 2~1555	(611) 3836	常任理事庶務会計
大川護謨工業株式会社	新発田 博	" 向島押上町 92	(622) 4156	" 経済部会会長
帯瀬ゴム化学工業(株)	帯瀬松次郎	" 隅田町 4~1083	(611) 7631	
(株)片岡ゴム工業所	片岡 得治	" 寺島町 5~127	(611) 2692	
協伸ゴム工業株式会社	大平佐三郎	" 吾婦町西 9~41	(611) 1540	
泰東ゴム工業株式会社	曾我 美良	" 吾婦町東 3~12	(611) 2682	
(株)共和ゴム製作所	松石 勝身	" 吾婦町東 3~12	(611) 7810	" 経済部会理事
錦和ゴム工業株式会社	池田 義保	" 吾婦町西 5~59	(611) 5732	
(株)鯉淵ゴム工業所	鯉淵 時	" 寺島町 5~88	(611) 6364	" 経済部会理事
国際ゴム株式会社	新井 泰沫	" 吾婦町西 8~12	(611) 0012	
小林ゴム製作所(株)	小林正太郎	" 隅田町 4~223	(611) 3885	
五味自動車工業株式会社	五味 貞一	" 隅田町 1~1303	(611) 3904	
小宮山ゴム工業(株)	小宮山博巳	" 寺島町 8~24	(612) 0272	
酒井ゴム工業株式会社	酒井 幸藏	" 隅田町 2~398	(611) 3513	" 経済部会理事
株式会社境ゴム商店	境 勇	" " 3~1165	(611) 6311	
(株)三共ゴム工業所	坂本 たけ	" " 1~1303	(611) 8083	
佐藤ゴム工業(株)	佐藤 清治	" 吾婦町西 2~34	(612) 4876	
株式会社城東製作所		" 寺島町 7~154		
昭和ラー化学工業株式会社	関谷 欣馬	" 吾婦町西 9~40	(611) 1433	
新光ゴム工業株式会社	大石 悦司	" 寺島町 5~83	(611) 6682	
スバルゴム工業株式会社	刀川 忠生	" 吾婦町東 4~8	(611) 5729	
住吉ゴム		" " 西 4~55	(611) 0919	
(株)芦沢ゴム工業所	芦沢定之助	" 寺島町 5~95	(611) 6320	
大栄ゴム工業(株)	中村 隆賢	" 吾婦町西 8~15	(611) 6339	
大機ゴム工業株式会社	福田 良成	" " 3~8	(612) 3191	相談役
大同ゴム株式会社	武田 義一	" " 8~15	(612) 5161	
大日ゴム工業株式会社	中村左武郎	" 錦糸町 4~5	(622) 1754	
株式会社高橋ゴム工業所	高橋 善茂	" 隅田町 4~52	(611) 0671	
多川ラテックス工業(株)	多川清次郎	" 向島須崎町 215		
(株)滝野ゴム工業所		" 吾婦町西 6~89		
株式会社田中ゴム製作所	田中 昭二	" 寺島町 6~173	(611) 0487	常任理事技術部会理事
ダブルスターゴム株式会社	大野 耕一	" " 5~126	(611) 1611	" 経済部会理事
千曲川ゴム		" 吾婦町東 5~63	(611) 4703	

編	集
雑	感



△：暑い夏も終つて、ようやく、しのぎ易い季節になりました。

寒いと、ついつい火が恋しく、春になると、ひねもすのたりのたり、夏には海や山が招いて、流行のバカンスとやらにあやかりたくなつてしまします。でも、遊んでばかりはいられません。それは、会報のメ切日が迫りかけるからです。

△：にも角にも、会報創刊号が目の目を見ました。器量は悪くとも自分の子は可愛いもの。会報も、また、会の、いえ貴方の子供です。深い愛情で立派に育て下さい。

△：編集委員は、会員各社の若手のバリバリです。みんな元気にお仕事に熱中しています。だから、会報の製作業務は、事務局が主体になります。勿論、専任の編

集者はいるのですが、便箋に書きなぐりの原稿や、升目を飛び出した解りにくい字は事務局が書きなおしをさせられます。そして時間が無いと長瀬ゴムの女子従業員もお手伝いを致します。

△：女の子は言いました。原稿用紙に何故ちやんと書かないのかしら……。一つの升に一字づつ書けばよいのにね、きつとこれを書いた人は乱視なんだわ……。と。

会報の原稿は、わかり易い字で原稿用紙にきちんと書いて下さい。さもないと、その人は、可愛いお嬢さんに乱視だと思われます。念の為

△：会報のページ数をはじめ、三十ページと決めましたが、予想外に原稿が集まつて、予定スペースを上回りました。このため、青江先生の「最近のゴム薬品」は上・下二回に分けて連載することになりました。御了承下さい。

△：オリンピック精神ではないけれど、勝つことよりは参加することに意義があるということは、会報発行にも当てはまりそうです。勿論、良いもの、高度のものをつくることは必要ですが、会員の

一人一人が、会報を通じて手をニギリ合うことの方が、もつと大切です。そういった意味で、編集委員会では、みなさまのご意見や面白いお話を広く募集いたします。ドンドンご応募下さい。

お知らせ

九月度理事会開催予定

九月二十日（金）午後六時から
大川ゴム二階会議室で九月度理事会を開き、当面の諸問題を審議します。

第二回編集委員会開催予定

九月二十五日（水）午後六時から
上野精養軒で才二回編集委員会を開き、創刊号の批判及び十一月号の編集方法及び広告の件について検討する。

第三回編集委員会開催予定

十月二十五日（金）午後六時から
才三回編集委員会を開く予定、場所未定。

後

記

墨東ゴム工業会・会報創刊号一号をおとどけいたします。

はじめての試みでもあり、限られた時間と、限られた予算によつて、編集されたため、不備の点も数多いかと存じます。今後は、会員のみならず、お気づきの個所を指摘していただいて、さらに良い会報にして行きたいと考えています。

なお、炎天下、本誌発行にあたっていろいろお骨折りいただいた関係者の方々はじめ、寸暇をさいて御寄稿下さいました諸先生並びに有志諸氏に心から御礼申し上げます。

墨東ゴム工業会会報

才 1 号 才 1 卷

昭和 38 年 9 月 10 日印刷

昭和 38 年 9 月 15 日発行

（隔月 1 回 15 日発行）

発行人	吉 泰 瀬 長
編集人	蔵 幸 井 酒
印刷人	雄 富 沼 鶴
発行所	東京都墨田区隅田町 1ノ1221 （長瀬ゴム工業内） 墨東ゴム工業会
印刷所	東京都墨田区吾端町西 8ノ52 うぬまプリント社